



STAINLESS BEAUTY
STEDIA
 ステディア



キッチンから、笑顔をつくろう

株主の皆さまへ
 第66期 報告書

2018年4月1日から 2019年3月31日まで

クリナップ株式会社

〒116-8587 東京都荒川区西日暮里6-22-22



70th
 Anniversary

証券コード 7955

株主の皆さまへ

「変革と創造」への挑戦を、確かな成果へとつなげる



代表取締役会長
井上 強一



代表取締役 社長執行役員
竹内 宏

■ 企業理念

家族の笑顔を創ります

■ 行動理念

私たちは、心豊かな食・住文化を創ります

私たちは、公正で誠実な企業活動を買います

私たちは、自らの家族に誇れる企業を創ります

遺憾ながら営業損失を計上しましたが、
来期は回復の見込みです。

新設住宅着工戸数は長期にわたって低迷し、リフォーム市場も伸びを欠く状況が続いています。そうした厳しい事業環境を反映し、当期の連結業績は、誠に遺憾ながら、減収および営業損失の計上となりました。株主の皆さまには、この場をお借りしてお詫び申し上げます。

一方、取り組み面では、未来のクリナップのあるべき姿の創出に向けて、変革を進めており、着実に成果が出始めております。次期は連結業績の回復を果たすべく、グループ一丸となって取り組んでまいります。

「2018中期経営計画」のビジョン達成に向け、
商品ラインナップを中心に、
「変革と創造」への挑戦を行っています。

当社は、近年の業績低迷を早期に脱し、再び“勝てる会社”へと変革していくことを目指して、当期(2018年度)を初年度とする「2018中期経営計画」を策定・始動いたしました。同計画では、ビジョンとして『暮らし価値創造企業「Cleanup」への変革』を掲げ、事業の「変革と創造」に挑戦しております。

中でも、商品ラインナップの変革と創造は、最も大きな挑戦です。昨年、長きにわたってベストセラーであり続けた「クリンレディ」と当社のフラッグシップモデル「S.S.」をそれぞれ「STEDIA(ステディア)」「(2018年9月～)」と「CENTRO(セントロ)」「(2018年2月～)」へと刷新を図りました。この決断は、新たなク

リナップ創出のためには、愛され親しまれてきたブランドの刷新、すなわち根元からの変革が不可欠であるとの考えによるものです。2019年2月には、普及モデルの「ラクエラ」のリニューアルも行い、3グレードすべての刷新を完了しております。

「STEDIA」と「CENTRO」の使命は、中高級市場における当社の存在感を改めて示していくことです。「CENTRO」は前期の「S.S.」に比べ数量では下回ったものの売上は拡大しており、より高い付加価値のブランドとして浸透しつつあります。また、中高級市場におけるクリナップの新たな中核ブランド「STEDIA」は、発売以来多くの引き合いをいただいております。いよいよ次期から売上・利益貢献してくるものと期待しております。

「中高級市場におけるシェア」の確保・向上に向け、
積極的な営業・販促施策を展開してまいります。

クリナップの存在感を客観的に示す指標は「中高級市場におけるシェア」です。これを確保・向上させていくために、当社は、営業・販促施策を引き続き積極的に展開してまいります。

まず、お客さまとの大切な接点であるショールームの魅力アップです。当期は6拠点の全面リニューアルを実施(うち3拠点は移転)を行いました。加えて、大都市圏には大規模な旗艦ショールームを設けておりますが、次期(2019年度)には、大阪・東京・名古屋に続く4カ所目となる「クリナップ・キッチンタウン・横浜」をオープン予定です。

また、販売促進策としては、2019年10月に創業70周年を迎えることを記念し、全国のショールームにて「70th 感謝キャンペーン」を実施しております(2019年5月中旬～11月末)。

次に、リフォーム事業の活性化に向けて、クリナップの「水まわり工房」において加盟店による事例写真コンテストを開催す

るなど、PR強化に努めております。2019年5月末現在、約4,100社にまで増加してきた加盟店組織との連携を更に深め、リフォーム需要の獲得・拡大につなげてまいります。

「新たなクリナップ」の創出に取り組んでまいります。

企業には、「変えるべきもの」と「変えてはならないもの」があります。「変革と創造」に挑んでいる当社は、その見極めをしっかりとしながら、「新たなクリナップ」の創出に取り組んでまいります。

株主の皆さまには、引き続きクリナップの経営にご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「2018中期経営計画」の概要

ビジョン

暮らし価値創造企業
「Cleanup」への変革

私たちCleanupは、「キッチンの専門家」として、キッチン、ダイニング、リビング、サニタリー空間に「新たな暮らし価値」を創造・提案することで世界中のお客様に「感動」をお届けし、いつまでも選ばれ続ける企業を目指します。

戦略・施策

| 構造改革 | 成長戦略 | 基盤強化 |
|----------------|-------------|-----------|
| 1 中高級市場での競争力強化 | 3 第2の事業の柱構築 | 5 技術力強化 |
| 2 収益構造の変革 | 4 M&Aと業務提携 | 6 ブランドづくり |
| | | 7 人づくり |



特集: システムキッチンの商品ラインナップを再構築

商品ラインナップ再構築に向け、システムキッチン3グレードすべてにおいて、ブランド刷新やリニューアルを行いました。

システムキッチン紹介
Webサイト
<https://cleanup.jp/kitchen/>



Grade I
高級モデル

2018年2月
フラッグシップモデルである「S.S.」を「CENTRO」としてブランド刷新

2019年2月
デザイン性等の強化

CENTRO

「CENTROアンバサダー」立上げなど積極的な販促展開

Grade II
中高級モデル

2018年9月
「クリンレディ」を「STEDIA」としてブランド刷新

STEDIA
ステディア

新CMなど積極的な広告販促展開

新CMでは、女優松たか子さんを起用

Grade III
普及モデル

2019年2月
リニューアル

リフォーム産業新聞主催
リフォーム大賞2019
キッチン部門 総合1位

rakuera
ラクエラ

2018年9月より、クリナップ中核ブランドの新たな物語が始まった

STEDIA 「クリンレディ」からのさらなる発展

ステディア 中高級価格帯の新たな中核ブランドへ

- 1** フロアコンテナ意匠を一新
インテリアトレンドの多様化に対応し、フロアコンテナ(足元収納)の意匠を一新し、LDK空間に馴染むデザインに
- 2** 「アクリストン流レールシンク」誕生
2015年に誕生した「流レールシンク」は、ステンレス製に加え、アクリストン製を新たに追加
- 3** 使用頻度と取り出しやすさを考慮した新収納も標準装備
手入れしやすく、清潔に使えるステンレスエコキャビネットの標準装備に加え、当社が今まで培ってきた収納思想「ゾーンコンセプト」をさらに進化

LDK空間においてキッチンや周辺収納への高いデザイン性が求められるなか、システムキッチンのパイオニアである当社が、ベストセラー商品「クリンレディ」をさらに発展させ「STEDIA(ステディア)」を2018年9月に発売しました。

これは**Steady(不変の・堅実な)**と**Diamond(ダイヤモンド)**を掛け合わせた造語で、「システムキッチンに求められる機能やデザインを磨き上げていく」という思いを含め、命名いたしました。

システムキッチンのトップブランド「クリンレディ」の思いと実績を引き継ぎ、次の時代を支える商品として育ててまいります。

主なトピックス

商品関連

CENTRO STEDIA rakuera 日経ホームビルダー、リフォーム産業新聞 業界2紙から高評価を獲得

建築専門誌のキッチン部門で、クリナップが1位をいただきました。

また、「リフォーム産業新聞」主催の「リフォーム大賞2019」において、高級価格帯ではCENTROが2位、中級価格帯ではSTEDIAが1位、普及価格帯ではラクエラが1位をいただきました。さらに、キッチン部門の総合1位もラクエラがいただきました。

日経ホームビルダー
プロが採用したい
建材・設備メーカーランキング2018



システムキッチン部門 1位



リフォーム産業新聞
リフォーム営業マン・プランナーが選ぶ設備建材
リフォーム大賞2019

CENTRO 高級価格帯 2位

STEDIA 中級価格帯 1位

rakuera 普及価格帯 1位



キッチン部門
総合 1位

CENTRO STEDIA ビルトインコンロ「デュアルシェフ」・レンジフード「バジェーナ」 2018年度グッドデザイン賞ダブル受賞

2018年2月に発売したガス・IH一体型ビルトインコンロ「Dual Chef (デュアルシェフ)」と、レンジフード「Ballena (バジェーナ)」が、公益財団法人日本デザイン振興会が主催する2018年度グッドデザイン賞を受賞しました。



ガス・IH一体型ビルトインコンロ「Dual Chef」



- ガスとIHを両方搭載し、調理の種類に応じて両者の長所を使い分けることができるビルトインコンロ。
- 「おいしい料理を手際よく作る」という、調理機器の本質的な価値をユーザーに提供できる。
- 専用の大型調理プレートを用いた新たな調理方法を提案。キッチンの正面にグリルが露出せず、LDK空間と調和するデザインを実現。

対応シリーズ: CENTRO/STEDIA

ステンレスデザインフード「Ballena」



- 今までの常識を変える新しいデザインのレンジフード。
- 一般的なレンジフードに対し、レンジフード部の手前を大きく持ち上げることで、幕板を使用することなく送風機部分を覆い隠したデザイン。
- さらにフード部を薄く、また凹凸の無い形状とすることで、「一枚のステンレスの板」が壁に掛けられているような印象を与え、キッチン空間に開放感と高級感を演出。

対応シリーズ: CENTRO

ショールーム関連

ショールームリニューアル 2018年度は、6拠点のリニューアルを実施 継続的な改装・移転により、販売力を維持・強化

お客様との大切な接点であるショールームにおける価値提供をさらに強化するため、お客様のニーズに応えたショールームへと継続的にリニューアルを推進しております。

2018年度は、堺、金沢、高知の3ショールームを移転オープンいたしました。さらに、練馬、豊田、成田の3ショールームを全面リニューアルいたしました。

いずれのショールームも、最新キッチンの使用体験ができる「キッチンスタジオ」や、ダイニングまでの居住スペースを再現した「空間提案コーナー」等を設けることにより、これまで以上に地域に密着した提案活動を展開し、生活者の皆さまの多様化する暮らしのニーズにお応えしてまいります。

2018年度 6拠点のリニューアルを実施

移転



堺ショールーム (2018年5月8日オープン)

金沢ショールーム (2018年9月23日オープン)

高知ショールーム (2019年3月1日オープン)

改装



練馬ショールーム (2018年9月6日オープン)

豊田ショールーム (2018年9月6日オープン)

成田ショールーム (2019年4月5日オープン)

*ブランドオープンは2019年度

2019.6.28
OPEN

クリナップ・キッチンタウン・横浜 みなとみらい/横浜メディアタワー2階 全国で4カ所目のコンセプトショールーム誕生!



「DISCOVERY OF SMILE LIFE ~輝く未来と笑顔を実現できる場所~」。最新のキッチンや機器を体感できるスペースを豊富に設け、キッチンで生まれる時間や生活、そして家族の笑顔を感じ「キッチンと暮らすたのしさ」を発見・体験していただけるショールームです。



クリナップ・キッチンタウン・大阪 (2012年7月オープン)



クリナップ・キッチンタウン・東京 (2015年10月オープン)



クリナップ・キッチンタウン・名古屋 (2016年10月オープン)



連結ハイライト情報／連結部門別情報

■ 連結財務ハイライト

(百万円)

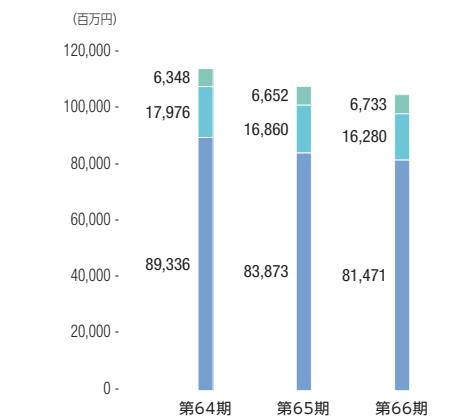
| | 第64期 2017年3月期 | 第65期 2018年3月期 | 第66期 2019年3月期 |
|-------------------------|------------------|------------------|------------------|
| 売上高 | 113,661 | 107,386 | 104,486 |
| 営業利益又は損失(△) | 1,989 | 398 | △ 465 |
| 経常利益又は損失(△) | 1,795 | 418 | △ 376 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益又は純損失(△) | 1,339 | 49 | △ 704 |
| 総資産 | 84,369 | 83,374 | 80,408 |
| 純資産 | 52,615 | 52,346 | 50,824 |

※総資産については第66期より「税効果会計に係る会計基準の一部改正」を適用しており、第65期については遡及適用後の数値を記載しております。

■ 部門別売上高(連結)

(百万円)

| | 第64期 2017年3月期 | 第65期 2018年3月期 | 第66期 2019年3月期 |
|---------|------------------|------------------|------------------|
| 厨房部門 | 89,336 | 83,873 | 81,471 |
| 浴槽・洗面部門 | 17,976 | 16,860 | 16,280 |
| その他 | 6,348 | 6,652 | 6,733 |
| 合計 | 113,661 | 107,386 | 104,486 |



厨房部門の主な商品

高級品クラスのシステムキッチン「S.S. / CENTRO (セントロ)」、中・高級品クラスの「クリンレディ / STEDIA (ステディア)」、普及品クラスの「ラクエラ」、マンション向けシステムキッチン、セクショナルキッチン等で構成されております。

浴槽・洗面部門の主な商品

中・高級品クラスのシステムバスルーム「アクリアバス」、普及品クラスの「ユアシス」等の浴槽関連商品と、洗面化粧台等で構成されております。

第66期の営業概況

市場環境

当連結会計年度におけるわが国経済は、米中貿易摩擦や英国のEU離脱問題等の不確定要素により、これまでの回復基調にかげりが見られてきました。

住宅設備機器業界におきましては、住宅取得優遇制

度や住宅ローンの低金利に支えられて持家の新設住宅着工戸数はほぼ横ばい、貸家は前年を大きく下回りました。また、期待されたリフォーム市場は伸びを欠き、先行き不透明な状況で推移いたしました。

業績・成果

このような中、当社グループは、2018年9月に新発売したシステムキッチン「STEDIA (ステディア)」や、2019年2月にリニューアルしたシステムキッチン「ラクエラ」など、付加価値の高い商品を市場に提供してまいりました。

販売面では、大切な顧客接点であるショールームでの価値提供強化を図るため、全国103カ所のショールームにてイベントを開催し、当社の会員登録制組織「水まわり工房」加盟店をはじめとした流通パートナーとの連携

も深めながら、需要の拡大、獲得に努めてまいりました。生産面では、東西の生産拠点での生産性向上、VE活動(*)を推進し、原価低減に努めてまいりました。以上の結果、当連結会計年度の売上高は、前期比2.7%減の1,044億86百万円となりました。利益面では営業損失4億65百万円(前期は3億98百万円の営業利益)、経常損失3億76百万円(同4億18百万円の経常利益)、親会社株主に帰属する当期純損失7億4百万円(同49百万円の純利益)となりました。

*VE活動: VE(Value Engineering)は、商品・サービスの期待される機能・価格を最低コストで確実に達成するための技術であり、VE活動は生産の現場におけるVE実現に向けた取り組み。

第66期の部門別の状況

部門別にみますと、厨房部門では、システムキッチン「S.S. / CENTRO (セントロ)」は数量減、金額増、「クリンレディ / STEDIA (ステディア)」は数量、金額とも減、「ラクエラ」は数量、金額とも増となりました。この結果、厨房部門の売上高は前期比2.9%減の814億71百万円となりました。

浴槽・洗面部門では、システムバスルーム「アクリアバス」は数量、金額とも減、「ユアシス」は数量減、金額増、洗面化粧台においては数量、金額とも減となりました。この結果、浴槽・洗面部門の売上高は前期比3.4%減の162億80百万円となりました。

連結財務諸表

※第66期より「税効果会計に係る会計基準の一部改正」を適用しており、第65期以前については遡及適用後の数値を記載しております。

■ 連結貸借対照表の要旨

(百万円)

流動資産 流動資産は前期末比25億71百万円減少し、478億33百万円となりました。これは電子記録債権が8億29百万円増加した一方、現金及び預金が30億24百万円、受取手形及び売掛金が4億11百万円減少したこと等によります。

固定資産 固定資産は前期末比3億94百万円減少し、325億74百万円となりました。これは有形固定資産が6億6百万円減少したこと等によります。

資産合計 総資産は前期末比29億66百万円減少し、804億8百万円となりました。

| | 第65期 2018年3月31日現在 | 第66期 2019年3月31日現在 |
|-----------------|----------------------|----------------------|
| (資産の部) | | |
| 流動資産 | 50,405 | 47,833 |
| 現金及び預金 | 19,706 | 16,682 |
| 受取手形及び売掛金 | 14,988 | 14,577 |
| 電子記録債権 | 11,480 | 12,309 |
| その他 | 4,230 | 4,264 |
| 固定資産 | 32,968 | 32,574 |
| 有形固定資産 | 22,096 | 21,489 |
| 建物及び構築物 | 8,561 | 8,171 |
| その他 | 13,535 | 13,318 |
| 無形固定資産 | 2,679 | 2,810 |
| 投資その他の資産 | 8,192 | 8,274 |
| 投資有価証券 | 5,223 | 5,151 |
| その他 | 3,023 | 3,288 |
| 貸倒引当金 | △ 54 | △ 166 |
| 資産合計 | 83,374 | 80,408 |

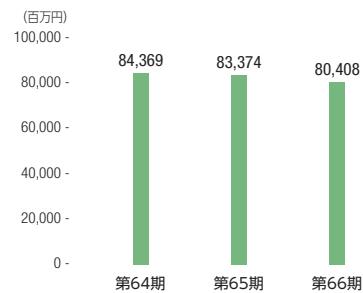
| | 第65期 2018年3月31日現在 | 第66期 2019年3月31日現在 |
|------------------------|----------------------|----------------------|
| (負債の部) | | |
| 流動負債 | 24,339 | 22,695 |
| 買掛金 | 6,373 | 6,020 |
| 電子記録債務 | 6,219 | 6,245 |
| 短期借入金(1年内返済予定の長期借入金含む) | 4,659 | 2,937 |
| その他 | 7,087 | 7,490 |
| 固定負債 | 6,687 | 6,887 |
| 長期借入金 | 1,292 | 2,379 |
| 退職給付に係る負債 | 915 | 318 |
| 役員退職慰労引当金 | 416 | 416 |
| その他 | 4,062 | 3,773 |
| 負債合計 | 31,027 | 29,583 |
| (純資産の部) | | |
| 株主資本 | 50,211 | 48,772 |
| 資本金 | 13,267 | 13,267 |
| 資本剰余金 | 12,351 | 12,351 |
| 利益剰余金 | 25,276 | 23,833 |
| 自己株式 | △ 683 | △ 680 |
| その他の包括利益累計額 | 2,135 | 2,052 |
| その他有価証券評価差額金 | 1,716 | 1,521 |
| 為替換算調整勘定 | 55 | 4 |
| 退職給付に係る調整累計額 | 363 | 525 |
| 純資産合計 | 52,346 | 50,824 |
| 負債純資産合計 | 83,374 | 80,408 |

流動負債 流動負債は前期末比16億44百万円減少し、226億95百万円となりました。これは株式給付引当金が2億49百万円増加した一方、買掛金が3億52百万円、短期借入金が19億10百万円減少したこと等によります。

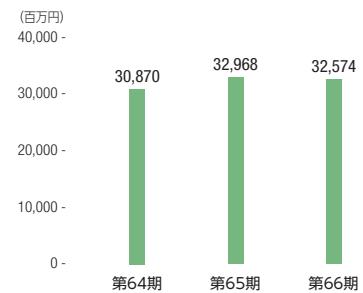
固定負債 固定負債は前期末比2億円増加し、68億87百万円となりました。これは主に退職給付に係る負債が5億97百万円、株式給付引当金が2億11百万円減少した一方、長期借入金が10億86百万円増加したこと等によります。

純資産合計 純資産合計は前期末比15億22百万円減少し、508億24百万円となりました。これは親会社株主に帰属する当期純損失7億4百万円、配当金の支払い7億37百万円等によります。この結果、自己資本比率は、前期末の62.8%から63.2%になりました。

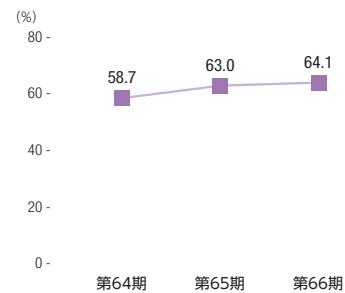
■ 資産合計



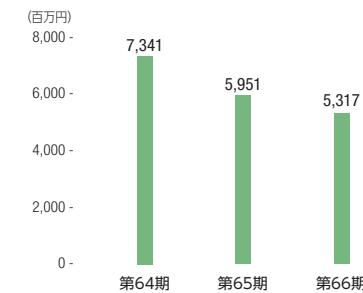
■ 固定資産



■ 固定比率

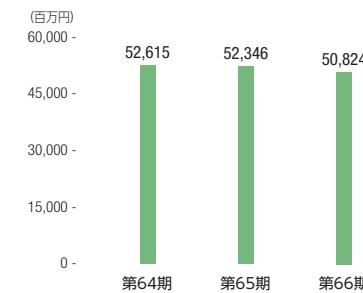


■ 有利子負債

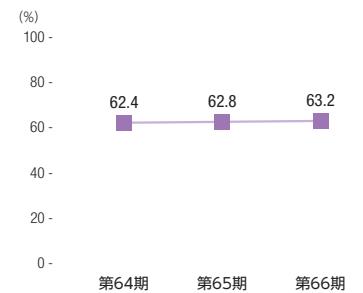


(※)有利子負債は短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、長期借入金の合計。

■ 純資産合計



■ 自己資本比率



連結財務諸表

■ 連結損益計算書および連結包括利益計算書の要旨 (百万円)

売上高 付加価値の高い商品の開発・供給、ショールームを起点とした価値提供強化と販売活動などに努めたものの、新設住宅着工戸数はほぼ横ばい、貸家は前年を大きく下回り、また、リフォーム市場の伸び悩みに等より、売上高は前期比2.7%減の1,044億86百万円となりました。

売上原価 原価低減の取り組みによる原価率ダウン等により、売上原価率は前期比0.1ポイントダウンし66.9%となりました。

販管費 人件費、物流費が減少する一方で、広告宣伝費が増加となりました。販管費率は前期比0.9ポイントアップし、33.5%となりました。

営業損失 減収に加え、販管費率の上昇により、営業損失4億65百万円(前期は3億98百万円の営業利益)となりました。

親会社株主に帰属する当期純損失 営業損失の計上を受けて、親会社株主に帰属する当期純損失7億4百万円(同49百万円の純利益)となりました。

(連結損益計算書)

| | 第65期 2017年4月 1日～ 2018年3月31日 | 第66期 2018年4月 1日～ 2019年3月31日 |
|-------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 売上高 | 107,386 | 104,486 |
| 売上原価 | 71,930 | 69,943 |
| 売上総利益 | 35,455 | 34,543 |
| 販売費及び一般管理費 | 35,056 | 35,008 |
| 営業利益又は損失(△) | 398 | △ 465 |
| 営業外収益 | 551 | 594 |
| 営業外費用 | 531 | 506 |
| 経常利益又は損失(△) | 418 | △ 376 |
| 特別利益 | 171 | 44 |
| 特別損失 | 239 | 331 |
| 税金等調整前当期純利益又は純損失(△) | 350 | △ 663 |
| 法人税等 | 301 | 40 |
| 当期純利益又は純損失(△) | 49 | △ 704 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益又は純損失(△) | 49 | △ 704 |

(連結包括利益計算書)

| | | |
|---------------|-----|-------|
| 当期純利益又は純損失(△) | 49 | △ 704 |
| その他の包括利益 | 417 | △ 83 |
| 包括利益 | 466 | △ 787 |

■ 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨 (百万円)

| | 第65期 2017年4月 1日～ 2018年3月31日 | 第66期 2018年4月 1日～ 2019年3月31日 |
|---------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 2,935 | 1,131 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 2,338 | △ 2,548 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 2,307 | △ 1,562 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 20 | △ 44 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | △ 1,690 | △ 3,024 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 21,896 | 20,206 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 20,206 | 17,182 |

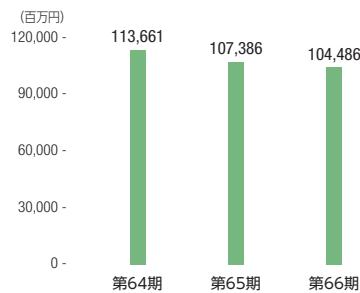
営業活動によるキャッシュ・フロー
営業活動によって得られた資金は11億31百万円(前期比61.4%減)となりました。これは減価償却費が37億49百万円あった一方、税金等調整前当期純損失が6億63百万円、退職給付に係る負債の減少額3億64百万円、長期前払費用の増加額3億31百万円、売上債権の増加額4億70百万円、たな卸資産の増加額7億14百万円、仕入債務の減少額3億24百万円があったこと等によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー
投資活動の結果使用した資金は25億48百万円(前期比9.0%増)となりました。これは生産設備の更新および改修、ショールーム移転・改装等の有形固定資産の取得による支出が13億4百万円、情報システム構築に伴う無形固定資産の取得による支出が9億51百万円、投資有価証券の取得による支出が3億24百万円あったこと等によるものです。

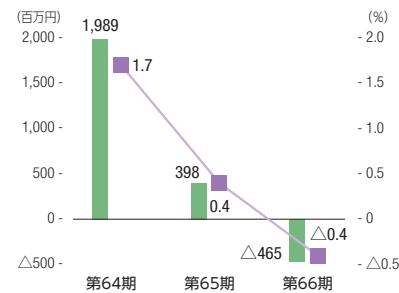
財務活動によるキャッシュ・フロー
財務活動の結果使用した資金は15億62百万円(前期比32.3%減)となりました。これは長期借入による収入が50億円あった一方、短期借入金の純減が19億10百万円、長期借入金の返済による支出が37億24百万円、配当金の支払額が7億37百万円あったこと等によるものです。

現金及び現金同等物の期末残高
現金及び現金同等物の期末残高は前期末に比べ30億24百万円減少して17億82百万円となりました。

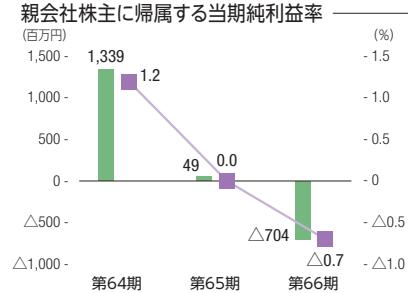
■ 売上高



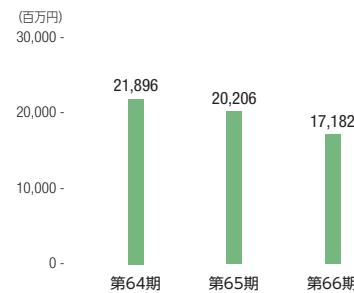
■ 営業利益・営業利益率



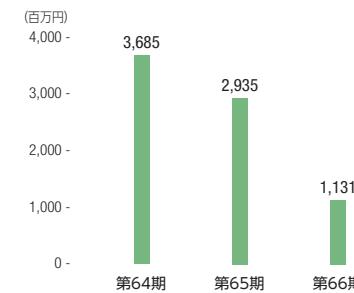
■ 親会社株主に帰属する当期純利益・親会社株主に帰属する当期純利益率



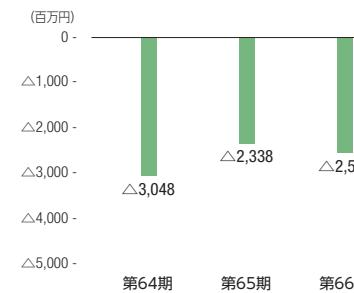
■ 現金及び現金同等物の期末残高



■ 営業活動によるキャッシュ・フロー



■ 投資活動によるキャッシュ・フロー



株式関連情報 (2019年3月31日現在)

■ 剰余金の配当について

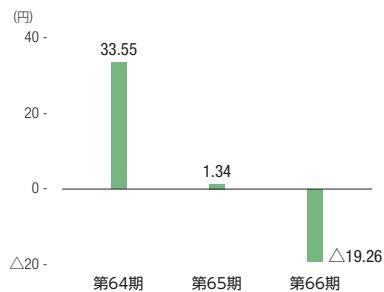
当社は、株主の皆さまに対する利益還元を重要な経営方針の一つと考えております。長期的な安定と成長を実現することにより最大の利益を上げ、安定的な配当を長期的に継続していくことを基本方針としております。

内部留保資金につきましては、新製品生産設備、営業拠点整備、

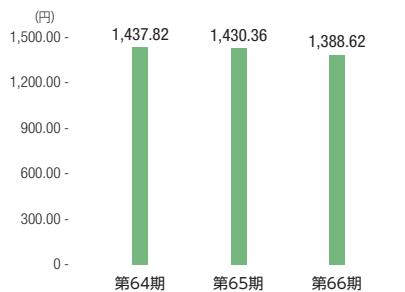
情報基盤整備等の設備投資に充て、効率的な経営による収益力の向上と資本効率の向上に努めてまいります。

なお、期末配当金につきましては、1株当たり10円とし、1株当たり年間20円の普通配当を実施させていただきました。

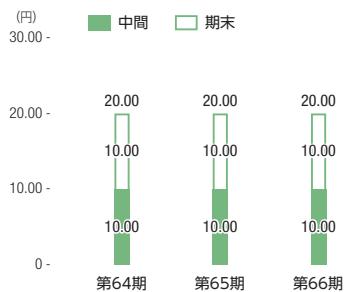
■ 1株当たり純利益



■ 1株当たり純資産額

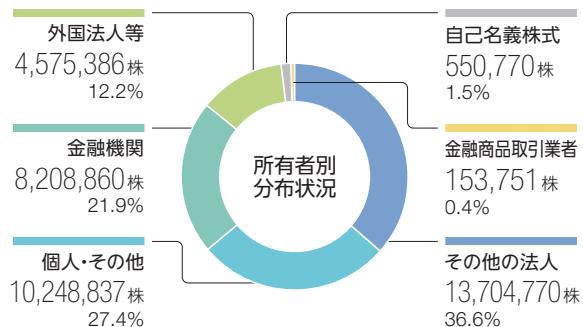


■ 1株当たり配当金



■ 株式の状況

発行可能株式総数 130,000,000 株
 発行済株式総数 37,442,374 株
 株主数 4,033 名



■ 大株主

| 株主名 | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
|------------------------------------|---------|---------|
| 株式会社井上 | 8,609 | 23.3 |
| クリナップ真栄会 | 2,044 | 5.5 |
| 株式会社タカヤス | 1,829 | 4.9 |
| 日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 1,809 | 4.9 |
| クリナップ共進会 | 1,722 | 4.6 |
| クリナップ社員持株会 | 1,647 | 4.4 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 985 | 2.6 |
| 株式会社三菱UFJ銀行 | 757 | 2.0 |
| 三菱UFJ信託銀行株式会社 | 693 | 1.8 |
| DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO | 623 | 1.6 |

(注) 持株比率は、「株式付与ESOP信託口」が保有する自己株式(290,600株)を除いた自己株式(550,770株)を控除して計算しております。

会社情報 / 株主メモ



■ 会社概要 (2019年3月31日現在)

商号 クリナップ株式会社
 Cleanup Corporation
 本社所在地 〒116-8587
 東京都荒川区西日暮里6丁目22番22号
 電話 03-3894-4771(大代表)
 創業 1949年10月5日
 会社設立 1954年10月5日
 上場 1990年2月6日 東証2部上場
 1991年9月2日 東証1部指定
 資本金 132億6,734万円
 主要営業品目 厨房機器、浴槽機器、洗面機器、その他
 社員数 連結：3,518名 / 単体：2,926名
 主な事業所 支社：国内4カ所
 支店：国内1カ所
 営業所：国内129カ所(出張所含む)
 海外：香港、台湾、上海
 工場：四倉、鹿島システム、湯本、クレート、鹿島
 (いずれも福島県いわき市)
 岡山(岡山県勝田郡勝央町)
 津山(岡山県津山市)

■ 役員 (2019年7月1日現在)

| | | | |
|-------------|-------|-------|--------|
| 代表取締役会長 | 井上 強一 | 取締役 | 川崎 享* |
| 代表取締役社長執行役員 | 竹内 宏 | 取締役 | 千代田有子* |
| 取締役副社長執行役員 | 小島 輝夫 | 常勤監査役 | 山根 康正 |
| 取締役専務執行役員 | 島崎 憲夫 | 常勤監査役 | 藤本 真一 |
| 取締役専務執行役員 | 山田 雅二 | 監査役 | 新谷 謙一* |
| 取締役専務執行役員 | 大竹 重雄 | 監査役 | 高品 彰* |
| 取締役専務執行役員 | 川田 和弘 | | |

*は社外

■ 株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日
 期末配当金 3月31日
 受領株主確定日
 中間配当金 9月30日
 受領株主確定日
 定時株主総会 毎年6月
 上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部
 電子公告により、下記当社ホームページに掲載いたします。なお、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
 電子公告掲載 URL <https://cleanup.jp/>
 単元株式数 100株

【株式に関するお手続きについて】

- 証券会社等の口座に記録された株式
 株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等(口座管理機関)にお問合せください。
- 特別口座に記録された株式
 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三菱UFJ信託銀行証券代行部までお問合せください。
- 未受領の配当金
 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行証券代行部までお問合せください。

【株主名簿管理人/特別口座の口座管理機関】

三菱UFJ信託銀行株式会社
【同連絡先】
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 東京都府中市日鋼町1-1
 電話:0120-232-711(通話料無料)
 郵送先:〒137-8081
 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部